

大学番号: 064

注3

届出

[平成22年度設置]

計画の区分: 研究科の設置

注1

国際医療福祉大学大学院 薬科学研究科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 国際医療福祉大学
平成23年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	企画部
職名・氏名	課長 小峰 辰也
電話番号	03-3475-0211
(夜間)	03-3475-0211
F A X	03-3475-0855
e-mail	komine@iuhw.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載し、その下欄に()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1 調査大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	5
3 施設・設備の整備状況、経費	8
4 既設大学等の状況	9
5 教員組織の状況	11
6 留意事項に対する履行状況	16
7 その他全般的事項	17

【添付資料】

① 薬科学研究科(生命薬科学専攻)授業科目の概要・新旧対照表	20
② 国際医療福祉大学 FD 委員会規程	42
③ 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	43

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 国際医療福祉大学

(2) 大学名

国際医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒324-8501
栃木県大田原市北金丸字上ノ原2, 600番1
〒107-0062
東京都港区南青山1-3-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成6年12月21日)		
学長	(キタジマ マサキ) 北島 政樹 (平成21年7月1日)		
大学院長	(カイハラ シゲコト) 開原 成允 (平成15年4月1日)	(カナザワ イチロウ) 金澤 一郎 (平成23年3月7日)	開原成允大学院長死亡のため、平成23年3月7日より大学院長の変更(23)
研究科長	(タケダ ヒロシ) 武田 弘志 (平成22年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)
平成23年度に報告する内容 → (23)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成21年度開設の博士後期課程の場合(平成23年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬科学研究科 生命薬科学専攻(修士課程) 修士(薬科学)	2年	15人	30人	基礎となる学部等 なし

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員超過率	備考
	平成21年度		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	15人		15人		0.33倍	
	()	()	(6)	()	(1)	()		
	[]	[]	[-]	[]	[-]	[]		
志願者数	()	()	9		1			
	()	()	(6)	()	(1)	()		
	[]	[]	[-]	[]	[-]	[]		
受験者数	()	()	9		1			
	()	()	(6)	()	(1)	()		
	[]	[]	[-]	[]	[-]	[]		
合格者数	()	()	9		1			
	()	()	(6)	()	(1)	()		
	[]	[]	[-]	[]	[-]	[]		
B 入学者数	()	()	9		1			
	()	()	(6)	()	(1)	()		
	[]	[]	[-]	[]	[-]	[]		
入学定員超過率 B/A			0.60		0.03			

- (注) ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 届出書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には, 平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			[-] 9		[-] 1				
2年次					[-] 8				
3年次									
計			[-] 9		[-] 9				

- (注) ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
 - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	% <hr/>
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
(主な退学理由)			
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	% <hr/>
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
(主な退学理由)			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 1人[0]	(累積)計 9人[0]	0.11% <hr/>
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 1人	うち平成22年度 9人	
(主な退学理由)			
・ 経済的理由 1人			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・ 就学意欲の低下 ・ 学力不足 ・ 他の教育機関への入学・転学 ・ 海外留学
 - ・ 就職 ・ 学生個人の心身に関する事情 ・ 家庭の事情 ・ 除籍 ・ その他

2 授業科目の概要

<大学院薬科学研究科 生命薬科学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人体病理学研究法	1・2前		1								
	統計学	1・2前後		2								
	統計学入門	1・2前		2								
	実例から学ぶ統計解析入門	1・2前後		2			1					学生の教育効果を考慮し、開講時期を変更(22)
	人体の構造と機能	1・2前		2		1						学生の教育効果を考慮し、兼任教員(2名)に変更(22)
	臨床遺伝学概論	1・2後		2								
	脳障害の生物学	1・2前		2								学生の教育効果を考慮し、開講時期を変更(22)(23)
	疫学概論	1・2前後		2		1						学生への教育効果を考慮し、専任教員に変更(22)
	臨床心理学概論	1・2前		2								
	社会福祉概論	1・2前		2								
	医療経済評価概論	1・2前		2		1						
	医療福祉情報学入門	1・2前		2								
医学用語初歩	未開講 1・2前後		1								担当教員の死亡により、代替の配置が困難なため(23) 学生の教育効果を考慮し、開講時期を変更(22)	
専門科目	臨床医学特論Ⅰ(内科系)	1・2後		1								
	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	1・2後		1								
	薬理学特論	1・2後		1		2	1	-1				講師から准教授への昇格者1名による変更(23)
	薬物治療学特論	1・2後		2		1						
	生命分析化学特論	1・2後		1			1					
	分子細胞応用学特論	1・2前		2		2						
	ゲノム分子生物学特論	1・2後		1		-1	-1					准教授から教授への昇格者1名による変更(23)
	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)	1前		2		10	3	-2	1			准教授から教授への昇格者1名、講師から准教授への昇格者1名による変更(23)
	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系)	1後		2		7	2	1				准教授から教授への昇格者1名による変更(23) 辞任に伴う教員の変更並びに教育内容充実のための増員(22)
	がんの基礎薬学	1・2前		1		2	1					辞任に伴う教員の変更(22)
	基礎腫瘍学	1・2後		1		1	-1					准教授から教授への昇格者1名による変更(23)
	がんの薬物療法学	1・2後		1		4						
	臨床腫瘍学Ⅰ(基礎)	1・2後		1		1	3					
	臨床腫瘍学Ⅱ(応用)	1・2後		2		-2	-1					准教授から教授への昇格者1名による変更(23)
	緩和薬理学	1・2後		1		1	1	-1				講師から准教授への昇格者1名による変更(23)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）	1・2後 4後		1		2 +						准教授から教授への昇格者1名による変更(23) 学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(22)	
	臨床薬物動態学特論Ⅱ（応用）	2後		1		1 +						准教授から教授への昇格者1名による変更(23) 辞任に伴う教員の変更(22)	
	がん薬物療法学特別実習	1・2後 4後		1		2			1		-	助教から講師への昇格者1名による変更(23) 学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(22)	
	がん治療TDM特別実習	1・2後 2後		1				1			1	助教から講師への昇格者1名による変更(23) 学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(22)	
	がん薬物療法認定薬剤師実習 医療コミュニケーション論	1・2後 2後		6		2						学生の履修の便宜を図り、配当年次を変更(22)	
	創薬育薬医療講義Ⅰ（基礎）	1・2後 1前		2								学生への教育効果を考慮し、配当年次を変更(22)	
	創薬育薬医療講義Ⅱ（応用）	1・2後		2							+	辞任に伴う教員の変更(22)	
	創薬育薬医療演習Ⅰ（基礎）	1・2前									+	学生への教育効果を考慮し、単位数を変更(22)	
	創薬育薬医療演習Ⅱ（応用）	1・2後		2							+	辞任に伴う教員の変更(22)	
	創薬育薬医療演習Ⅲ（展開）	1・2通年		1								学生への教育効果を考慮し、単位数を変更(22)	
	創薬育薬医療演習Ⅲ（展開）	1・2通年		-2							+	辞任に伴う教員の変更(22)	
	創薬育薬医療実習Ⅰ（基礎）	2前		2							+	辞任に伴う教員の変更(22)	
	創薬育薬医療実習Ⅱ（応用）	2後		2							+	辞任に伴う教員の変更(22)	
	臨床病院実務実習Ⅰ（長期）	1・2通年		10			2				1	-	助教から講師への昇格者1名による変更(23)
	臨床病院実務実習Ⅱ（中期）	1・2前		6			2				1	-	助教から講師への昇格者1名による変更(23)
	臨床保険薬局実務実習	1・2通年		10			1						
	生命薬科学特別研究	1~2通年		10			17 +5		5 -6		2 -3		准教授から教授への昇格者2名、講師から准教授への昇格者1名による変更(23) 辞任に伴う教員の変更並びに教育内容充実のための教員の増員(22)

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
1	44	0	45	1	44	0	45	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	医学用語初歩	1	1・2	一般	選択	担当教員死亡により、代替者を探したが見つからなかったため、開講できなかった。
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目 なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

医学用語初歩は、担当教員の死亡のため代替者が見出せず、本年度についてはやむを得ず未開講とせざるを得なかったが、来年度の開講については万全を期したい。学生への周知については、オリエンテーションの際に文書にて行った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.02}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	校舎敷地	296,462㎡	0㎡	0㎡	296,462㎡						
	運動場用地	71,384㎡	0㎡	0㎡	71,384㎡						
	小 計	367,846㎡	0㎡	0㎡	367,846㎡						
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡						
	合 計	367,846㎡	0㎡	0㎡	367,846㎡						
(2) 校舎	専 用	102,500㎡	0㎡	0㎡	102,500㎡						
	()	102,500㎡	()	()	102,500㎡						
(3) 教室等	講義室	82室	演習室	22室	実験実習室	98室	情報処理学習施設	4室	語学学習施設	2室	
					(補助職員 2人)		(補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	薬科学研究科				26		室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	教育環境の充実を図り、図書、学術雑誌、視聴覚資料を補充した(23)			
	薬科学研究科	22,700 [2,700] (24,066 [5,817]) (18,852 [2,291])	2,710 [670] (2,511 [516]) (2,469 [506])	2,000 [1,200] (2,001 [1,159]) (1,924 [1,158])	690 (604) (537)	6,800 (6,435)	150 (140)				
	計	22,700 [2,700] (24,066 [5,817]) (18,852 [2,291])	2,710 [670] (2,511 [516]) (2,469 [506])	2,000 [1,200] (2,001 [1,159]) (1,924 [1,158])	690 (604) (537)	6,800 (6,435)	150 (140)				
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収納可能冊数						
	2,700.74㎡		761		160,000						
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	5,331.29㎡		弓道場、テニスコート6面、武道場								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	800千円	800千円	図書購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円			
	共同研究費等	12,000千円	12,000千円	設備購入費	35,000千円	35,000千円	35,000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,050千円	850千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等									

(注) ・ 届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	国際医療福祉大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
保健医療学部 看護学科	4	100		400	学士（看護学）	1.28	平成7年度	栃木県大田原市 北金丸2600番1	
理学療法学科	4	80		320	学士（理学療法学）	1.27	平成7年度		
作業療法学科	4	80		320	学士（作業療法学）	1.24	平成7年度		
言語聴覚学科	4	80		320	学士（言語聴覚学）	1.18	平成7年度		
視機能療法学科	4	40		160	学士（視機能療法学）	1.28	平成14年度		
放射線・情報科学科	4	100		400	学士（放射線・情報科学）	1.28	平成7年度		
医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科	4	160	3年次 5	650	学士（医療福祉学） 学士（医療マネジメント学）	1.12	平成21年度		
医療経営管理学科	4	100		400	学士（医療経営管理学）	-	平成9年度		平成21年度から 学生募集停止
医療福祉学科	4	140	5	570	学士（医療福祉学）	-	平成9年度		平成21年度から 学生募集停止
薬学部 薬学科（6年制）	6	180		1080	学士（薬学）	1.00	平成18年度		
福岡リハビリテーション学部 理学療法学科	4	80		320	学士（理学療法学）	1.14	平成17年度	福岡県大川市榎 津字中曾利137 番1	
作業療法学科	4	40		160	学士（作業療法学）	1.12	平成17年度		
言語聴覚学科	4	40		160	学士（言語聴覚学）	1.05	平成19年度		
福岡看護学部 看護学科	4	80		320	学士（看護学）	1.27	平成21年度	福岡県福岡市長 浜1丁目3番1号	

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
小田原保健医療学部								
看護学科	4	50		200	学士（看護学）	1.11	平成18年度	神奈川県小田原市城山一丁目2番25号
理学療法学科	4	40		160	学士（理学療法学）	1.37	平成18年度	
作業療法学科	4	40		160	学士（作業療法学）	1.24	平成18年度	
医療福祉学研究科								栃木県大田原市北金丸2600番1
保健医療学専攻（修士課程）	2	100		200	修士（保健医療学） 修士（看護学） 修士（助産学）	1.28	平成11年度	
医療福祉経営専攻（修士課程）	2	50		100	修士（医療福祉経営） 修士（医療福祉） 修士（診療情報管理学）	1.26	平成13年度	
臨床心理学専攻（修士課程）	2	25		50	修士（臨床心理学）	1.00	平成19年度	東京都港区南青山一丁目3番3号
保健医療学専攻（博士課程）	3	50		150	博士（保健医療学） 博士（看護学） 博士（助産学） 博士（医療福祉経営学） 博士（医療福祉学）	1.27	平成13年度	栃木県大田原市北金丸2600番1
薬科学研究科								
生命薬科学専攻（修士課程）	2	15		30	修士（薬科学）	0.33	平成22年度	

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・ 届出書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<薬科学研究科 生命薬科学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	千葉百子(69)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) がんの基礎薬学 生命薬科学特別研究	専	教授	浅野 哲(50)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) がんの基礎薬学 生命薬科学特別研究	平成22年3月 千葉百子教授 就任辞退のため平成22年度 より担当者の変更(22)
専	教授	久岡正史(64)	平成22年4月	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	兼任	講師	大谷 壽一(42)	平成22年9月	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	平成22年3月 久岡正史教授 就任辞退のため平成22年度 より担当者の変更(22)
				生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	専	教授	天野 託(46)	平成22年9月	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	
専	教授	北川 明(47)	平成22年4月	実例から学ぶ統計解析入門	兼任	講師	大橋 靖雄(56)	平成22年4月	実例から学ぶ統計解析入門	平成22年9月 北川明准教授 就任辞退のため平成22年10 月より担当者の 変更(22)
				創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)	兼任	講師	渡邊 裕之(44)	平成22年4月	実例から学ぶ統計解析入門	
				創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療演習Ⅱ(応用) 創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)	兼任	教授	大西 純一(56)	平成22年4月	創薬育薬医療講義Ⅱ(応用) 創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療演習Ⅱ(応用) 創薬育薬医療演習Ⅲ(展開) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅰ(応用)	
				創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅰ(応用)			後任未定		創薬育薬医療講義Ⅱ(応用) 創薬育薬医療演習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療演習Ⅱ(応用) 創薬育薬医療演習Ⅲ(展開) 創薬育薬医療実習Ⅰ(基礎) 創薬育薬医療実習Ⅰ(応用)	
専	准教授	徳村 忠一(54)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	専	准教授	徳村 忠一(54)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	平成22年4月 教員内空の元 業を図るため専 任教員を増員 (22)
				生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) 生命薬科学特別研究	専	准教授	榊原 巖(52)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) 生命薬科学特別研究	
				生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) 生命薬科学特別研究	専	講師	清水 貴壽(43)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系) 生命薬科学特別研究	
				生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	専	講師	加藤 英明(38)	平成22年4月	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系) 生命薬科学特別研究	

兼担	教授	杉森 甫 (74)	平成22年4月	創薬育薬医療講義 I (基礎)	兼担	教授	大西 純一 (56)	平成22年4月	創薬育薬医療講義 I (基礎)	平成22年3月 杉森甫教授辞任のため担当者を変更(22)	
											平成23年3月 大西純一教授就任辞退のため他1名の専任教員にて通常開講(23) 「後任未定」 兼担で後任担当者を選定中
					兼担	教授	杉森 甫 (75)	平成22年4月	創薬育薬医療演習 III (展開) 創薬育薬医療実習 I (基礎) 創薬育薬医療実習 II (応用)	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)	
兼担	教授	佐々木 淳 (61)	平成22年4月	創薬育薬医療講義 I (基礎) 創薬育薬医療実習 I (基礎) 創薬育薬医療実習 II (応用)	兼担	教授	佐々木 淳 (62)	平成21年4月	創薬育薬医療演習 III (展開) 創薬育薬医療実習 I (基礎) 創薬育薬医療実習 II (応用)		
					兼担	教授	大西 純一 (56)	平成22年4月	医療コミュニケーション論	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)	
											平成23年3月 大西純一教授就任辞退のため他3名の担当教員にて通常開講(23) 「後任未定」 兼担で後任担当者を選定中
兼担	教授	鈴木義之 (72)	平成22年4月	臨床遺伝学概論 脳障害の生物学	兼担	教授	桃井 隆 (60)	平成22年4月	臨床遺伝学概論 脳障害の生物学	平成22年3月 鈴木義之教授就任辞退のため、 担当者を変更(22)	
兼担	講師	加藤憲司 (43)	平成22年4月	疫学概論	専	教授	池田 俊也 (47)	平成22年4月	疫学概論	平成22年3月 加藤憲司講師就任辞退のため、 担当者を変更(22)	
兼担	講師	中原 綾子 (56)	平成22年4月	医療コミュニケーション論 創薬育薬医療演習 III (展開)	兼担	講師	中原 綾子 (57)	平成22年4月	医療コミュニケーション論 創薬育薬医療演習 III (展開) 創薬育薬医療演習 I (基礎) 創薬育薬医療演習 II (応用) 創薬育薬医療実習 I (基礎) 創薬育薬医療実習 II (応用)	平成22年4月 学生への教育効果を考慮し、 教員を増員(22)	
兼任	講師	嶋田裕之 (77)	平成22年4月	人体病理学研究法	兼任	講師	林 皓三郎 (72)	平成22年4月	人体病理学研究法	平成22年3月 嶋田裕之兼任講師就任辞退のため、 担当者を変更(22)	

	兼担	教授	岡崎 勲 (68)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					授業内容の充実を図るため兼担教員を増員(22)
	兼担	教授	岩本晃明 (65)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					
	兼担	教授	鈴木 元 (60)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					
	兼担	教授	岡田耕治 (54)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					
	兼担	准教授	岡部輝雄 (45)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					
	兼担	講師	静間 徹 (44)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅰ(内科系)					
兼担	教授	村山史雄 (54)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	兼担	教授	藤原正則 (63)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	平成22年4月村山史雄兼担教授、鈴木裕兼担教授の就任辞退による担当者の変更(22)
兼担	教授	鈴木 裕 (50)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	兼担	教授	真船健一 (56)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	
					兼担	教授	沼崎 啓 (55)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	授業内容の充実を図るため兼担教員を増員(22)
					兼担	教授	大和田倫孝 (54)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	
					兼担	教授	矢崎貴仁 (50)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	
					兼担	准教授	若江幸三良 (52)	平成22年4月	臨床医学特論Ⅱ(外科系)	
兼担	教授	開原成允 (73)	平成22年4月	医療情報学入門 医療用語初歩	兼担	准教授	篠原信夫 (38)	平成23年4月	医療情報学入門	平成23年1月開原成允教授死亡のため、担当者を変更(23)
							後任未定			平成23年1月開原成允教授死亡のため平成23年度未開講(23) ↑「後任未定」兼担で後任担当者を選定中
兼担	准教授	河口洋行 (44)	平成22年4月	統計学入門	兼担	講師	中山晃志 (38)	平成23年4月	統計学入門	平成23年4月河口洋行准教授就任辞退のため、担当者を変更(23)
兼担	教授	鈴木五郎 (71)	平成22年4月	社会福祉概論	兼担	教授	高橋紘士 (66)	平成23年4月	社会福祉概論	平成23年4月鈴木五郎教授就任辞退のため、担当者を変更(23)

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈○○研究科 ○○専攻(○○課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
19	4	23	0	22	4	26	0	
(19)	(4)	(23)	(0)	[3]	[0]	[3]	[0]	

(注) ・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	北川 明	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)
2	教授	千葉 百子	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)
3	教授	久岡 正史	当該教員の個人的事情により、本学を自己都合退職したため、薬科学研究科を辞任となった。(22)

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

各教員とも、やむを得ない理由による退職のため、薬科学研究科の専任教員も辞任することを了承した。学生には掲示、オリエンテーションでの説明及び履修の手引き（学生便覧）への掲載により周知した。これに伴う、教員の補填及び増員を行ったので、教育の実施には支障はないと考えている。(22)

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (21年9月)	特になし	該当なし	
設置計画履行状況 調 査 時 (22年5月)	小田原保健医療学部理学療法 学科の入学定員超過の是正に 努めること。	細心の注意をもって合否判定 等にあたったが、H23年度から の入試制度変更（特待生入試 制度の導入）もあり、歩留り 数が予測を上回った。そのた め入学定員超過率はH22年度の 1.50から1.45へと若干の改善 にとどまった。	過去の入学手続率等のデータ を今一度精査し直し、さらに 慎重かつ精確な合否判定を行 うことで定員超過の是正に努 める。

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<薬科学研究科 生命薬科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
① 「授業科目の概要」	① 「授業科目の概要」新旧対照表を添付 (P. 24)

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 国際医療福祉大学FD委員会規程を添付 (P. 46)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 毎月1回 各専攻主任が集まって開催（専攻主任会議）、分野責任者が集まる代表者会議開催</p> <p>c 委員会の審議事項等 アカデミックハラスメントについて、論文審査について、e-learning授業について 等</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院教育におけるハラスメントについて ・ アカデミックハラスメントについて具体的事例とそれらを生み出す要因に対する認識を深める ・ 研究者の行動規範について ・ 大学院教育に関わる先生方が日頃感じている諸問題の確認と、改善方法の提案 ・ 研究指導・論文審査方法についてのワークショップ <p>b 実施方法 遠隔テレビ会議システムを使用した講演及び質疑応答</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 平成21年7月22日開催 214名中89名出席、平成22年7月28日開催 222名中88名出席</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 FDの開催について参加者アンケートを実施し、結果をフィードバックしてゆく 今後の研究指導や論文審査の方法等の見直しを行ってゆく</p>

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
別紙を添付 (P. 47)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成22年9月、「2008年度国際医療福祉大学自己点検・評価報告書」を公表

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、学内では役員等、教員及び附属施設の長等各1冊を配布、学外では、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会等の関係団体、医療・保健・福祉系の国公立大学、前記以外の自己点検評価報告書の寄贈を受けた大学、主な学外実習施設、自己点検・評価委員会外部委員、地元記者クラブに各1冊配布
・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成19年度に評価機関(財団法人日本高等教育評価機構)の認証評価を受けた
次回、法令に定められた期間内のいつ受けるかは学内で検討中

(注)・届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成23年 10月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.iuhw.ac.jp/>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

薬科学研究科(生命薬科学専攻)授業科目の概要・新旧対照表

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	統計学入門	<p>本講義は統計学を学んだことのない人や苦手な人向けの初級編となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていると、そこから先の理解が難しくなる。そのため、基礎となるデータの種類や記述統計の理解を中心に解説をしていく。また、推測統計の主体ともなる検定については、流れの理解を中心に解説をしていく。なお、本講義にはExcelやSPSSなどのパソコンソフトの操作方は含まれていない。講義項目は以下のとおり。</p> <p>母集団と標本(記述統計と推測統計)、データの収集とデータの種類、1標本データの記述-代表値-散布度(ちらばり)、2標本データの記述-クロス表、相関、帰帰、記述統計のまとめ、確率分布、推定論、統計的検定の流れ、検定手法各論/ノンパラメトリック検定、推測統計のまとめ(23)</p>		共通科目	統計学入門	<p>統計学の入門的な基礎知識を学習する。特に、修士論文において統計解析を行う場合に、最低限必要な基礎知識を習得することを目的とする。統計に苦手意識をもっている人にもわかりやすく講義を進める。専門的な統計学を学ぶ基礎として受講することを想定している。主な講義項目は以下のとおりである。・分析はソフトがやってくれるか(SPSSの操作方法)基礎・論文で使用する分析方法の特徴(多変量解析手法)基礎・データの種類と分析方法の相性(データ特性)基礎・なんでも平均値で大丈夫か(平均・分散・標準偏差)記述統計・ヒストグラムで分布を見る(グラフ表現)記述統計・なぜ三すくみがおきるのか(確率分布)推測統計・全部はしらべられないけれど(標本集団と母集団)推測統計・違いは偶然ではない(統計的検定)推測統計・確からしい幅を知りたい(区間推定)推測統計・因果関係を知りたい(帰帰分析)推測統計・ノンパラメトリックとは何か(ノンパラ分析)推測統計・統計学の落とし穴</p>	
共通科目	人体病理学研究法	<p>病理学研究は人間の病気についての科学的な研究である。病気の原因やその機作についての研究は最近の分子生物学の目覚ましい進展とともに分子レベルでの細胞、組織、器官の病気に伴う変化が明らかにされ、その臨床応用もさまざまな新しい診断・治療法として進んでいる。その一端を紹介して病気についての理解を深めたい。</p> <p>主な講義項目は以下のとおりである。・病理学とはどんな学問でなにを学ぶのか?・細胞の死(壊死、アポトーシス、オートファジー)と全身の死・炎症とは(サイトカインとケモカイン)・ウイルス感染・免疫反応と疾患・腫瘍(22)</p>		共通科目	人体病理学研究法	<p>医学上の最重要課題である、がん、免疫、脳、発生分化の原理に迫ることは病理学の一分野である。ヒトの形態形成から病気の発生まで、すべてゲノムの働きであるから、分子病理学を科目のコアとする。病理学用語は難解のようであるがやがて慣れます。心配はいらない。多くの病気はヒトの遺伝子の変異とその周辺の変容によっておこるのだから、シンプルに考えることが必要である。具体的な講義項目は以下のとおりである。癌と細胞(1)、癌と細胞(2)、癌と細胞(3)、発生と分化、老化、活性酸素の役割</p>	
共通科目	社会福祉概論	<p>福祉とは何か、その定義や理念からはじめて、社会福祉概念の多義性を理解し、歴史、制度内容、専門職の役割など、福祉の全体像を学ぶ。主な講義項目は以下のとおりである。</p> <p>生活の理解と福祉(福祉の意味を考える)、自立と依存(支援の根拠と支援のレベル・マクロ、ミクロ、メゾ)、ニーズ充足の経路(市場と政府、家族と共同体)、政府部門の役割の変遷(補充的福祉モデルから制度的福祉モデルへ)、産業社会の成立と福祉(福祉制度の誕生と展開)、福祉国家の成立、福祉制度の諸相(福祉制度の分類学)、社会保障、社会福祉、保健医療制度と福祉サービス、福祉の法制度、福祉の財政制度、福祉の実施機関と制度、供給組織とサービス提供組織(行政組織、福祉サービス提供組織)、福祉の人的資源(専門職の種類と役割)、福祉と関連する制度・サービス(23)</p>		共通科目	社会福祉概論	<p>社会福祉とは何か、その概念や理念、目的、他の保健福祉制度との関係・連携のあり方など本質を理解する。社会経済構造や思想、政治などとの関連でどのように発展してきたのか、社会福祉の歴史を理解する。社会福祉専門職の援助方法、高齢者や障害者、児童など領域の課題を理解する。社会福祉は、経済社会、生活の変化と共に時々刻々変化をしてゆく福祉ニーズに対応してゆくので、その視点を学んでほしい。主な講義項目は以下のとおりである。・社会福祉とはなにか、概念、目的、理念・社会福祉の外部環境(マクロ、メゾ)・日本における社会福祉の歴史(明治、大正、昭和戦前)・日本における社会福祉の歴史(戦後から現在まで)・欧米の社会福祉の歴史・社会福祉の構造、社会福祉の法制、利用の仕組み・社会福祉施設及び在宅福祉事業の運営・専門職の資格、専門援助技術、他職種との連携・地域福祉、ボランティア・高齢者福祉、障害者福祉の課題・低所得、児童家庭福祉の課題</p>	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	実例から学ぶ統計解析入門	<p>医療・看護・公衆衛生(public health)分野の量的研究の基礎方法論である生物統計学(biostatistics)について、入門的講義を行なう。単なる数式の運用・ブラックボックス的应用ではなく、ヒトを扱う以上不可避なバラツキの中で、いかに効率的にデータを収集し解析し解釈するか、基礎的考え方を重視する。</p> <p>(大橋靖雄) 生物統計学入門について講義する。</p> <p>(渡邊裕之) ・バラツキとバイアス、研究方法論の基礎、データの記述、検査データの解釈、統計的推測、2群の比較(離散データ)(多群の比較、多重比較も一部含む)、2群の比較(連続データ)(多群の比較、多重比較も一部含む)、相関係数とその解釈、回帰分析入門、生存時間解析入門、統計モデル入門、カテゴリカルデータ解析入門、疫学研究データの解析について講義する。 (22)</p>	オムニバス	共通科目	実例から学ぶ統計解析入門	<p>初心者ならびに中級者を対象に、研究を企画・遂行するのに必要な統計解析の方法ならびにデータを読み取ることに力点をおく。あわせて統計解析の手法について解説する。データの入力や加工はエクセルを使い、統計解析はJMPという統計ソフトを用いて実施する。この授業では統計解析の初歩を学ぶ。主な講義項目は以下のとおりである。・基本的な統計用語の説明・Excelの基本操作・Excelの応用操作(関数、ピボットの使用、ファイル変換)・尺度についての説明とグラフの作成・アンケートと解析方法とは・変量の分布と2平均の差(対応のあるt検定、対応のないt検定)とは・一元配置分散分析と多重比較とは・回帰分析とは・2変量と多変量の関係とは・生存時間の解析とは・カテゴリカルな分布とモデルとは</p>	
共通科目	人体の構造と機能	<p>2名の担当者により講義が行われる。 前半の概要:受精卵を出発点として、多くの形態形成遺伝子、細胞間相互作用を介して、さまざまな組織が形成される。ES細胞、iPS細胞はこうした研究の成果である。脳は形態形成の遺伝子制御の下、神経細胞が増殖、細胞死、分化、移動し形成される。神経系はシナプスを介して標的組織の機能を調節しており、標的器官(組織)の構造と機能を学び、神経系の調節機構を学ぶ。 後半の概要:我々の身体は皮膚を介して莫大な情報を受け取る。リハビリテーション医学の分野では体表から積極的に刺激を加える。この授業では、そのような体性感覚刺激によって起こる内臓機能の変化とそのメカニズムを学び、リハビリテーション効果のメカニズムを考察していく。</p> <p>(桃井隆) 発生 形態形成(上皮、神経系の形成)、形態形成(上皮、神経系の形成)、組織形成(iPS細胞の可能性)、脳の構造と機能(シナプス、情報伝達系)、末梢神経、感覚系(目、耳、鼻)、筋組織、心臓(循環器系)、肺、肝臓(膵臓)、生殖器官等について講義する。</p> <p>(黒澤美枝子) 自律神経性調節の基礎、体性感覚神経機能の基礎、体性感覚刺激と循環機能、体性感覚刺激と内分泌機能、体性感覚刺激と消化・排尿機能調節、タッチセラピー等について講義する。 (22)</p>	オムニバス	共通科目	人体の構造と機能	<p>二名の担当者により前半は形態中心、後半は機能中心の講義が行なわれる。形態では、これまでの教科(解剖学関係)ではあまり深入りできなかった事柄について、画像資料を多く用いて正確なイメージ作りとその臨床応用との関連について考察する。機能面に関しては、体表への刺激によって自律機能に起こる反応を中心に解説し、リハビリテーション時に起こる自律機能の反応を考察する。 講義内容は基礎的事項が中心となるが、できるだけ臨床的な関連性を重視して紹介したい。主な講義項目は以下のとおりである。・体表観察法(1)(体表で視認または触知し得る構造物の確認:体幹)・体表観察法(2)(体表で視認または触知し得る構造物の確認:四肢)・リンパ管の形態(1)(組織液の通路とリンパ管との関係)・リンパ管の形態(2)(腸、滑膜のリンパ管の微細分布の実際)・個体差と破格について(1)(血管の破格例の供覧とその成立を考察)・個体差と破格について(2)(筋、内臓の破格例の供覧とその成立を考察)・体性神経系と自律神経系の相互作用・自律神経機能概論・性-自律反射1:体性感覚刺激によって起こる循環機能変化(1)・体性-自律反射2:体性感覚刺激によって起こる循環機能変化(2)・体性-自律反射3:体性感覚刺激によって起こる胃腸管・肝臓機能変化・タッチセラピーと自律神経機能</p>	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	臨床遺伝学概論	<p>20世紀は分子生物学の進歩により、遺伝の実体がDNAであることが明らかにされ、さらにはDNA解析技術の進歩により、ヒトゲノムの全遺伝子情報が解明され、癌をはじめとして、多くの遺伝病を含む疾患の原因遺伝子が解明されてきた。現在はこうした基盤の上に、遺伝子治療、幹細胞治療が開始されており、今後10年以内には個人の遺伝子情報を容易に得られる時代が到来する。疾患の原因としての遺伝子変異とその治療法について講義する。</p> <p>主な講義項目は以下のとおりである。遺伝とは？受精、発生、形態形成、増殖・細胞分化、複製の機構、転写の機構、翻訳と糖鎖修飾、脂質修飾、幹細胞、ES細胞、iPS細胞、遺伝病と遺伝子診断、筋ジストロフィーの病態、筋ジストロフィーの治療戦略、がん、糖尿病、精神神経疾患、遺伝子治療、幹細胞治療、iPS細胞治療。(22)</p>		共通科目	臨床遺伝学概論	<p>過去の人類遺伝学では、癌、脳、発生、老化、免疫といった重要問題の課題になかなか答えられなかったが、現在、分子病理学はその原理に迫り、1997年に一個の体細胞から生まれたクローン羊は、発生、老化の常識をまったく変えてしまった。さらに、医学はいまや遺伝子治療の時代にまで突入した。メンデル遺伝の古典から現代分子遺伝学までを平易に解説する。ヒトを探ろう、そしてそのためにはゲノムを探ろう。DNAという「母なる言葉」どおり血筋は争えないし、DNAの狂った分裂で癌にもなる。どうしてか。研究の歴史がそれを教えてくれる。メンデルの発見からDNAの2重螺旋構造の発見までの人類の苦闘を省みよう。主な講義項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血筋はなぜ争えないのか ・血友病の悲劇 ・メンデル法則発見への過程 ・染色体の発見、血液型の決定はどうして ・DNA発見への道、鎌状赤血球性貧血から得たもの ・DNAはなぜ2重螺旋構造なのか ・生命の辞書はどのようにして読まれるか ・DNAから蛋白へ ・細胞分裂の仕組み ・生命の多様性 ・性の決定 ・遺伝子治療の夜明け 	
共通科目	脳障害の生物学	<p>脳は発達過程で、形態形成の遺伝子制御の下、神経細胞が増殖、細胞死、分化、移動し形成される。シナプスを介しての神経細胞のネットワークが言語、感情、記憶などの機能を形成する。こうした脳機能は胎生期、乳幼児期に遺伝要因と環境要因に著しく影響をうけることで、さまざまな脳障害がおこる。パーキンソン病、アルツハイマー病などの神経変性疾患、自閉症、言語障害などの脳発達障害、うつ病、統合失調症などの精神疾患の分子病態をストレス応答、細胞死、変性の視点から理解する。</p> <p>主な講義項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳科学 脳研究の方法、最前線 ・脳の進化、形成、神経細胞の増殖、細胞死 ・脳の構造(大脳、小脳)と形態 ・シナプス ネットワーク形成 ・感覚と言語 ・記憶と学習 ・感情とストレス ・神経細胞死 ・神経変性疾患 総論 ・神経変性疾患 各論 (パーキンソン病、アルツハイマー、ポリグルタミン病など) ・精神疾患総論 ・精神疾患各論(うつ病、統合失調症など) ・脳発達障害(自閉性障害 言語障害) ・遺伝子治療、幹細胞療法、治療薬の可能性を考える。(22) 		共通科目	脳障害の生物学	<p>特に発達という視点から、脳の形成、機能発現、そして個体発生の途中で生ずる多くの疾患の病態と予防・治療について考えてみる。このシリーズでは、講義という形態による具体的な知識・事実の提供というよりも、「研究」という考え方、発想法を相互方向に討議してゆきたいと考えている。主な講義項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究とは ・脳の機能をどう理解するか ・生物学的存在としての脳 ・子どもの発達と脳障害:正常と異常 ・全身の病気と脳の病気 ・遺伝現象と脳障害 ・代表例:フェニルケトン尿症 ・病気はいつも同じでない:病気と時間 ・環境要因による脳の機能障害 ・遺伝病・ゲノム・遺伝子医療 ・動物はヒトの病気のモデルになるか ・脳の遺伝病を治したい 	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	疫学概論	<p>実地診療や公衆衛生活動における計画・評価を、エビデンスに基づいて実施するには、エビデンスを吟味すること、自らエビデンスを構築できること、それらを患者・消費者・医療関係者・政策決定者などとコミュニケーションできることが求められる。本講義では、そのための初歩的知識や枠組みを身につけてもらうことを目的とする。具体的には、疫学的手法を臨床研究に適用して臨床の質・効率に関するエビデンスを創る方法、エビデンスを使って適切な臨床判断を行う方法等について学ぶ。</p> <p>主な講義項目は以下のとおりである。・疫学・臨床疫学的手法、臨床疫学とエビデンスに基づく診療・看護(EBM・EBN)、診療ガイドライン、臨床判断学、医療経済評価(臨床経済学)、医療の質の評価、患者満足度、疾病管理、臨床疫学と保健医療政策、文献の批判的吟味(1)糖尿病、文献の批判的吟味(2)高血圧、文献の比較的吟味(3)喘息、文献の比較的吟味(4)うつ病(22)</p>		共通科目	疫学概論	<p>「疫学」と聞くと統計学のような内容を漠然と思いがちの人が多く、だが疫学とは一つの科学的思考法の体系であり、統計学はそのための道具に過ぎない。本講義では疫学理論への入門書として名高いKenneth J. RothmanのEpidemiology: An Introductionを輪読し議論することで、疫学的思考の本質について理解を深めることを目指す。主な講義項目は以下のとおりである。・疫学的思考入門 ・因果関係とは ・疫学における測定 ・疫学研究法 ・バイアス ・偶然誤差 ・疫学データの解析 ・交絡とその調整 ・臨床への応用</p>	
共通科目	医療福祉情報学入門	<p>医療に関連する情報技術(Information Technology)と、それを扱う情報システムについて概説する。そのために、まず医療情報の特徴について理解し、その発生から利用にいたるまで情報の流れに沿って説明し、そこに関わる情報システムを解説することにより、関連する各トピックス間のつながりが理解できるようになることを目的としている。医療に関連する情報技術や情報システムを理解するために必要なコンピュータの知識についても講義を行う。主な講義項目は以下のとおりである。コンピュータの基礎1(コンピュータとはどんなものか)、コンピュータの基礎2(コンピュータはなぜ通信できるのか)、医療情報の特徴と流れ、病院情報システム1(オーダエントリシステム)、病院情報システム2(部門システム)、病院情報システム3(物流の管理)、病院情報システム4(導入と運用)、電子カルテ、地域医療連携・EHR、DPC調査データ、医療情報の標準化、医療情報の知識処理、医療情報の二次利用、まとめとディスカッション(23)</p>		共通科目	医療福祉情報学入門	<p>医療情報を専門としない人のために、診療報酬システム、病院情報システム、電子カルテ、遠隔医療、健康管理システムなどの基礎、現状、将来を概説する一連の講義。医療における情報技術の利用の現状について全体像を学ぶことができる。主な講義項目は以下のとおりである。・日本の医療・福祉情報化の概観、情報化の目的・診療情報とは何か ・診療所・病院の情報化(1) オーダリングシステムから電子カルテへ ・診療所・病院の情報化(2) 病院経営の基盤、医療材料・薬剤の流通システム ・地域医療と情報化 ・診療報酬請求システム レセプト電算システムからオンライン請求へ ・診療情報の標準化 標準病名集など ・診療指標(クリニカル・インディケータ) ・遠隔医療 ・市民・患者への情報開示 - 診療録の開示、医療機関検索、薬剤情報の検索など ・EBMと診療ガイドライン ・セキュリティと個人情報保護 ・最近の話題、まとめと質疑</p>	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床医学特論Ⅰ (内科系)	<p>臨床医学における疾病の種類や概念について基礎的な知識を修得することを目的とする。さらに現在の医療はチーム医療であり、効率的な医療体制のシステム作りが必要である。したがって薬剤師にも臨床医学的知識が求められており、本講義で臨床医学の基礎を学び、臨床現場での応用医学につながる土台を形成する。講義形式が中心となるが、医療現場の紹介や病院のシステムについても学習する。決められたテーマについて学生が自主的に学習し、レポート報告を行って、お互いに意見を交換することも試みる。本講義、臨床医学特論Ⅰでは、特に内科系疾患を重点を置いて講義を行い、代表的疾患の概要、診療ガイドラインや薬物療法について学ぶ。</p> <p>(岡崎 勲) イントロダクションとして内科学総論を講義する。</p> <p>(岡部 輝雄) 循環器疾患Ⅰ：不整脈、心不全、高血圧、狭心症、心筋梗塞等の循環器疾患について学ぶ。</p> <p>(大原 正志) 肝・胆・膵疾患：肝炎、肝硬変、膵炎について学ぶ。</p> <p>(大野 彰二) 呼吸器疾患、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺真菌症、肺結核について学ぶ。</p> <p>(岡田 耕治) 内分泌疾患：糖尿病、高脂血症、痛風、骨粗鬆症等について学ぶ。</p> <p>(岩本 晃明) 腎・泌尿生殖器疾患：糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、腎癌について学ぶ。</p> <p>(鈴木 元) 血液疾患：白血病、悪性リンパ腫、貧血等について学ぶ。</p> <p>(静間 徹) 消化器系疾患Ⅱ：胃炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患について学ぶ</p> <p>(22)</p>	オムニバス	専門科目	臨床医学特論Ⅰ (内科系)	<p>臨床医学における疾病の種類や概念について基礎的な知識を修得することを目的とする。さらに現在の医療はチーム医療であり、効率的な医療体制のシステム作りが必要である。したがって薬剤師にも臨床医学的知識が求められており、本講義で臨床医学の基礎を学び、臨床現場での応用医学につながる土台を形成する。講義形式が中心となるが、医療現場の紹介や病院のシステムについても学習する。決められたテーマについて学生が自主的に学習し、レポート報告を行って、お互いに意見を交換することも試みる。</p> <p>本講義、臨床医学特論Ⅰでは、特に内科系疾患を重点を置いて講義を行い、代表的疾患の概要、診療ガイドラインや薬物療法について学ぶ。</p> <p>(大野彰二／4回) イントロダクション、内科学総論、不整脈、心不全、高血圧、狭心症、心筋梗塞等の循環器疾患、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺真菌症、肺結核等の呼吸器疾患、白血病、悪性リンパ腫、貧血等の血液疾患について講義する。</p> <p>(大原正志／4回) 胃炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患等の消化器疾患、糖尿病、高脂血症、痛風、骨粗鬆症等の内分泌疾患、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、腎癌等腎・泌尿・生殖器疾患、肝・胆・膵疾患：肝炎、肝硬変、膵炎等について講義する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床医学特論Ⅱ (外科系)	<p>臨床医学における疾病の種類や概念について基礎的な知識を修得することを目的とする。さらに現在の医療はチーム医療であり、効率的な医療体制のシステム作りが必要である。したがって薬剤師にも臨床医学的知識が求められており、本講義で臨床医学の基礎を学び、臨床現場での応用医学につながる土台を形成する。講義形式が中心となるが、医療現場の紹介や病院のシステムについても学習する。決められたテーマについて学生が自主的に学習し、レポート報告を行って、お互いに意見を交換することも試みる。</p> <p>本講義、臨床医学特論Ⅱでは、特に外科系疾患を重点を置いて講義を行い、代表的疾患の概要、診療ガイドラインや薬物療法について学ぶ。</p> <p>(蘇原 泰則) イントロダクションとして外科学概論について学ぶ。</p> <p>(矢崎 貴仁) 脳神経疾患:脳出血、脳梗塞について学ぶ。</p> <p>(真船 健一) 消化器系疾患Ⅰ:食道癌、胃癌、大腸癌、消化器系疾患Ⅱ:肝・胆・膵疾患:肝癌、胆石症、膵臓癌、消化器疾患Ⅲ:逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患について学ぶ。</p> <p>(大和田 倫孝) 婦人科疾患:乳癌、子宮癌、卵巣癌、子宮筋腫について学ぶ。</p> <p>(沼崎 啓) 免疫疾患:慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群について学ぶ。</p> <p>(若江 幸三良) 整形外科疾患:変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、骨腫瘍、脊髄腫瘍について学ぶ。</p> <p>(22)</p>	オムニバス	専門科目	臨床医学特論Ⅱ (外科系)	<p>臨床医学における疾病の種類や概念について基礎的な知識を修得することを目的とする。さらに現在の医療はチーム医療であり、効率的な医療体制のシステム作りが必要である。したがって薬剤師にも臨床医学的知識が求められており、本講義で臨床医学の基礎を学び、臨床現場での応用医学につながる土台を形成する。講義形式が中心となるが、医療現場の紹介や病院のシステムについても学習する。決められたテーマについて学生が自主的に学習し、レポート報告を行って、お互いに意見を交換することも試みる。本講義、臨床医学特論Ⅱでは、特に外科系疾患を重点を置いて講義を行い、代表的疾患の概要、診療ガイドラインや薬物療法について学ぶ。</p> <p>(村山史雄/4回) イントロダクション、外科学総論、脳神経疾患:脳出血、脳梗塞、免疫疾患:慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、整形外科疾患:変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、骨腫瘍、脊髄腫瘍等について講義する。</p> <p>(鈴木 裕/4回) 消化器系疾患:食道癌、胃癌、大腸癌、肝・胆・膵疾患:肝癌、胆石症、膵臓癌、婦人科疾患:乳癌、子宮癌、卵巣癌、子宮筋腫、皮膚科疾患:熱傷、湿疹、蕁麻疹、血管炎、皮膚がん等について講義する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)	<p>生命薬科学総合演習Ⅰは専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、生命薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学分野の学生には、広範に広がる生命薬学に関する普遍的知識と、最新の知見を、医療薬学およびがん薬物療法学領域の学生には、臨床薬学の基礎を構成している生命薬学の知識や、研究手法を学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。</p> <p>(11 尾能満智子/1回) 創薬におけるターゲット化合物からの化学合成法について演習する。</p> <p>(12 渡邊敏子/1回) 創薬における化学合成リード化合物の探索について演習する。</p> <p>(21 後藤了/1回) 創薬・薬効成分探索におけるコンピュータによるドラッグデザインについて演習する。</p> <p>(17 白石昌彦/2回) 薬学におけるゲノム科学の寄与、ゲノム薬学の最新の知見とその手法について演習する。</p> <p>(14 角南明彦/1回) チャンネルと薬物の機能解析について演習する。</p> <p>(清水貴壽/1回) DEPをはじめとする各種ナノ粒子の生体への影響やその作用機序について演習する。</p> <p>(浅野 哲/1回) 慢性炎症に伴う異常なモデリング機構の分子病理学的解明について演習する。</p> <p>(4 犬飼正俊/1回) 機能未知遺伝子の機能解析、ノックアウト株のウイルスについて演習する。</p> <p>(5 吉川博治/1回) 新規生理活性物質、特異酵素を生産する微生物のスクリーニング、分離法及び微生物による二次代謝産物生産の制御機構の解明について演習する。</p>	オムニバス	専門科目	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)	<p>生命薬科学総合演習Ⅰは専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、生命薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学分野の学生には、広範に広がる生命薬学に関する普遍的知識と、最新の知見を、医療薬学およびがん薬物療法学領域の学生には、臨床薬学の基礎を構成している生命薬学の知識や、研究手法を学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。</p> <p>(11 尾能満智子/1回) 創薬におけるターゲット化合物からの化学合成法について演習する。</p> <p>(12 渡邊敏子/1回) 創薬における化学合成リード化合物の探索について演習する。</p> <p>(21 後藤了/1回) 創薬・薬効成分探索におけるコンピュータによるドラッグデザインについて演習する。</p> <p>(17 白石昌彦/2回) 薬学におけるゲノム科学の寄与、ゲノム薬学の最新の知見とその手法について演習する。</p> <p>(14 角南明彦/1回) チャンネルと薬物の機能解析について演習する。</p> <p>(2 千葉百子/1回) 環境衛生とリスクマネジメントについて演習する。</p> <p>(4 犬飼正俊/2回) 機能未知遺伝子の機能解析、ノックアウト株のウイルスについて演習する。</p> <p>(5 吉川博治/2回) 新規生理活性物質、特異酵素を生産する微生物のスクリーニング、分離法及び微生物による二次代謝産物生産の制御機構の解明について演習する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)(続き)	<p>(榎原 巖/1回) 中枢・循環器系に作用する漢方処方の有効性の解明と、薬効成分特定、それに伴う、有効性の高い生薬選定について演習する。</p> <p>(9 金野柳一/1回) D-アミノ酸とDアミノ酸代謝関連酵素の生理的意義について演習する。</p> <p>(13 黒澤美枝子/1回) 生理学の基礎と応用:神経伝達を中心に実験手法の構築について演習する。</p> <p>(1 武田弘志/1回) ストレス応答と薬剤について演習する。</p> <p>(22 辻 稔/1回) ストレス適応遺伝子の探索について演習する。 (22)</p>	オムニバス	専門科目	生命薬科学総合演習Ⅰ(基礎系)(続き)	<p>(9 金野柳一/1回) D-アミノ酸とDアミノ酸代謝関連酵素の生理的意義について演習する。</p> <p>(13 黒澤美枝子/1回) 生理学の基礎と応用:神経伝達を中心に実験手法の構築について演習する。</p> <p>(1 武田弘志/1回) ストレス応答と薬剤について演習する。</p> <p>(22 辻 稔/1回) ストレス適応遺伝子の探索について演習する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系)	<p>生命薬科学総合演習Ⅱは専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、医療薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学コースの学生には、臨床における薬学へのニーズや、translational research等の最新の知見や、縦横的な薬学研究の精神を学び、医療薬学およびがん薬物療法学コースの学生においては、細分化されつつある医療薬学の全体像を再構築し、ならびに最新の医療薬学の知見や流れを学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。</p> <p>(15 原 明義/2回) 臨床薬理学の概念-臨床と基礎のtranslation-、臨床薬理学における最新の研究とその手法について演習する。</p> <p>(8 旭満理子/1回) 医療薬学とは何か?-研究のあり方と手法-、医療薬学の今後の方向性-専門薬剤師と研究-について演習する。</p> <p>(6 小瀧 一/1回) translational research及びtranslational researchにおける薬剤師の関わり、について演習する。</p> <p>(天野 託/2回) 気分障害、統合失調症、てんかんや慢性疼痛(持続性身体表現性疼痛障害)の病態薬物療法に関する最新の知見について演習する。</p> <p>(7 佐藤拓夫/2回) 臨床試験及び臨床試験における薬剤師の重要性について演習する。</p> <p>(16 池田俊也/2回) 薬剤経済、医療経済について演習する。</p> <p>(18 山田治美/1回) 臨床でのTDM応用、血中薬物動態研究とその最新研究法について演習する。</p> <p>(徳村忠一/2回) DDSの開発における包接化合物および競合包接阻害物質の基礎的知見と製剤化の応用、製剤化におけるin vitro実験とin vivo実験の適応法について演習する。</p> <p>(加藤英明/2回) アルコールとストレスの中樞神経系を介した行動相関ならびにその詳細な機構について演習する。</p> <p>(22)</p>	オムニバス	専門科目	生命薬科学総合演習Ⅱ(臨床系)	<p>生命薬科学総合演習Ⅱは専門研究・教育を充実する一方で、薬学の全体を俯瞰できる総合的な演習とした。複数の異なる方法論を身につけ、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力をそなえた、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。当演習においては、医療薬学を中心に置き、オムニバス形式とし、生命薬学コースの学生には、臨床における薬学へのニーズや、translational research等の最新の知見や、縦横的な薬学研究の精神を学び、医療薬学およびがん薬物療法学コースの学生においては、細分化されつつある医療薬学の全体像を再構築し、ならびに最新の医療薬学の知見や流れを学ぶ。演習の構成は、座学のみではなく、学生によるプレゼンテーションを含めた双方向の参加型演習形式をとる。</p> <p>(15 原 明義/2回) 臨床薬理学の概念-臨床と基礎のtranslation-、臨床薬理学における最新の研究とその手法について演習する。</p> <p>(8 旭満理子/3回) 医療薬学とは何か?-研究のあり方と手法-、医療薬学の今後の方向性-専門薬剤師と研究-について演習する。また、まとめを担当する。</p> <p>(6 小瀧 一/2回) translational research及びtranslational researchにおける薬剤師の関わり、について演習する。</p> <p>(3 久岡正史/2回) 薬物動態が臨床に果たす役割、Drug Deliverrey System-最新のtargetting薬剤を中心に-、について演習する。</p> <p>(7 佐藤拓夫/2回) 臨床試験及び臨床試験における薬剤師の重要性について演習する。</p> <p>(16 池田俊也/2回) 薬剤経済、医療経済について演習する。</p> <p>(18 山田治美/2回) 臨床でのTDM応用、血中薬物動態研究とその最新研究法について演習する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	がんの基礎薬学	<p>臨床におけるがん薬物療法を学ぶ基礎科目として、創薬および環境衛生薬学的見地から専門的講義を実施する。創薬分野では、抗がん剤の創薬化学創薬標的分子の機能を制御する化合物の創製から有機化学に基づく創薬法を学ぶ。生物活性天然分子からの抗がん成分の単離、構造決定法、生物活性天然分子の生命科学研究や創薬への応用を探る。発がん環境衛生では、グローバルな見地に立ち、地球環境汚染と健康リスクアセスメントを導入として、環境化学物質や生活習慣とがんの関係について学び、発がん機構について理解する。特に環境毒性学に注目して、発がんリスクアセスメントを学ぶ。学部においては低学年の配置のため、より臨床に近い専門的講義を実施し、基礎薬学を再構築する。</p> <p>(12 渡邊敏子 /2回) 天然物からの抗がん活性成分の探索、リード化合物創製とリード最適化に関する創薬の過程を講義する。</p> <p>(11 尾能満智子 /1回) 抗がん剤のDNAへの作用と代謝拮抗作用を講義する。</p> <p>(21 後藤 了 /1回) 最新の創薬過程である抗がん剤の構造活性相関とコンピューターによるドラッグデザインを概説する。</p> <p>(浅野 哲 /4回) 次の項目について講義する。・発がんに関連すると考えられる地球環境汚染を知る。がん抑制のための健康リスクアセスメント・発がんにおける環境毒性、さらに現代の世界や日本における産業中毒・職業がんを知る。化学物質の毒性作用とその発現機構について学び、職場で暴露する危険性を有する化学物質・環境化学物質や生活習慣と発がん機構を学ぶ。発がんにかかわる環境因子・生活環境因子を知ること、発ガンのリスクや予防医学を理解する。</p> <p>(22)</p>	オムニバス	専門科目	がんの基礎薬学	<p>臨床におけるがん薬物療法を学ぶ基礎科目として、創薬および環境衛生薬学的見地から専門的講義を実施する。創薬分野では、抗がん剤の創薬化学創薬標的分子の機能を制御する化合物の創製から有機化学に基づく創薬法を学ぶ。生物活性天然分子からの抗がん成分の単離、構造決定法、生物活性天然分子の生命科学研究や創薬への応用を探る。発がん環境衛生では、グローバルな見地に立ち、地球環境汚染と健康リスクアセスメントを導入として、環境化学物質や生活習慣とがんの関係について学び、発がん機構について理解する。特に環境毒性学に注目して、発がんリスクアセスメントを学ぶ。学部においては低学年の配置のため、より臨床に近い専門的講義を実施し、基礎薬学を再構築する。</p> <p>(12 渡邊敏子 /2回) 天然物からの抗がん活性成分の探索、リード化合物創製とリード最適化に関する創薬の過程を講義する。</p> <p>(11 尾能満智子 /1回) 抗がん剤のDNAへの作用と代謝拮抗作用を講義する。</p> <p>(21 後藤 了 /1回) 最新の創薬過程である抗がん剤の構造活性相関とコンピューターによるドラッグデザインを概説する。</p> <p>(2 千葉百子 /4回) 次の項目について講義する。1) 地球環境汚染と健康リスクアセスメント 2) 環境毒性学と産業中毒 3) 職業がん: 化学物質の毒性作用とその発現機構 4) 環境化学物質や生活習慣と発がん機構</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	<p>本講義では、PK-PD解析、Population Pharmacokinetics Analysisおよびコンピュータを用いた動態解析を講義・演習する。PK-PD解析は、薬物動態と薬効発現試験を組み合わせることにより血中濃度と薬力学的作用の程度及び発現の時間との関係の特徴づけることができる。このPK-PD解析を、解析手法の基礎の習得から学び、実際の薬物動態・薬効発現モデルを用いた演習形式で講義する。また、現在の臨床動態解析では、Population Pharmacokinetics Analysis(母集団薬物速度論)が主流となっていることから、Population Pharmacokinetics Analysisの考え方、ベイズ法の理念を講義し、コンピュータソフトSAS・WinNolinによる薬物動態解析、およびSAS・WinNolinを実際に使用した薬物動態解析を実施する。</p> <p>(大谷 壽一/4回) PK-PD解析の考え方、PK-PDの理論を2回にわたって講義し、PK-PD解析の基礎を講義する。また、Population Pharmacokinetics Analysisの概念や理論を講義して臨床での応用の状況を概説する。さらにSAS・WinNonlinを用いて実際にどのように薬物動態解析を行うかを示す。</p> <p>(18 山田 治美/4回) PK-PD解析の実際をヒステリシスやsigmoid E-maxモデルなど実例を用いて演習形式で講義する。WinNonlinを実際に使用してコンピューターによる動態解析を演習する。 (22)</p>	オムニバス	専門科目	臨床薬物動態学特論Ⅱ(応用)	<p>本講義では、PK-PD解析、Population Pharmacokinetics Analysisおよびコンピュータを用いた動態解析を講義・演習する。PK-PD解析は、薬物動態と薬効発現試験を組み合わせることにより血中濃度と薬力学的作用の程度及び発現の時間との関係の特徴づけることができる。このPK-PD解析を、解析手法の基礎の習得から学び、実際の薬物動態・薬効発現モデルを用いた演習形式で講義する。また、現在の臨床動態解析では、Population Pharmacokinetics Analysis(母集団薬物速度論)が主流となっていることから、Population Pharmacokinetics Analysisの考え方、ベイズ法の理念を講義し、コンピュータソフトSAS・WinNolinによる薬物動態解析、およびSAS・WinNolinを実際に使用した薬物動態解析を実施する。</p> <p>(3 久岡正史/4回) PK-PD解析の考え方、PK-PDの理論を2回にわたって講義し、PK-PD解析の基礎を講義する。また、Population Pharmacokinetics Analysisの概念や理論を講義して臨床での応用の状況を概説する。さらにSAS・WinNonlinを用いて実際にどのように薬物動態解析を行うかを示す。</p> <p>(18 山田 治美/4回) PK-PD解析の実際をヒステリシスやsigmoid E-maxモデルなど実例を用いて演習形式で講義する。WinNonlinを実際に使用してコンピューターによる動態解析を演習する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	医療コミュニケーション論	<p>医療コミュニケーションについての基礎的な知識を学び、臨床試験の支援の際にみならず、医療全般において役立つコミュニケーション能力を身につける。医療コミュニケーションの習得法を学ぶ。ロールプレイにより実践することにより評価する。 主な講義内容は以下のとおりである。</p> <p>(中野重行/15回) イントロダクション、医療コミュニケーションの学び方、話のし方・質問のし方、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、医療におけるインフォームドコンセント、臨床試験のインフォームドコンセントのあり方、ロールプレイ法(SP参加)による学習、治験のインフォームドコンセント、薬物療法に関する患者とのコミュニケーション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、ディスカッションについて担当する。</p> <p>(大西純一/9回) 臨床試験におけるインフォームドコンセント文書の記載事項、ロールプレイ法(SP参加)による学習、治験のインフォームドコンセント、薬物療法に関する患者とのコミュニケーション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、ディスカッションについて担当する。(23)</p> <p>(中原綾子/8回) ロールプレイ法(SP参加)による学習、治験のインフォームドコンセント、薬物療法に関する患者とのコミュニケーション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、ディスカッションについて担当する。</p> <p>(青谷恵利子/8回) ロールプレイ法(SP参加)による学習、治験のインフォームドコンセント、薬物療法に関する患者とのコミュニケーション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、ディスカッションについて担当する。(22)</p>	オムニバス	専門科目	医療コミュニケーション論	<p>創薬育薬医療チームをはじめ医療に従事する職種においては、コミュニケーションの能力が重要である。この授業では医療コミュニケーションについての基礎的な知識や理論を学び、臨床試験の支援の際だけでなく、医療で役立つコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。模擬患者とのワークショップなどを積極的に取り入れた体験型の学習も試みる。到達目標としては患者や創薬育薬チーム構成員との意思疎通、傾聴や共感が行えること。自分の考えを分かり易く正しく伝えることができること。医療コミュニケーションの理論や考え方を正しく説明できることを設定する。</p> <p>(中野重行/8回) イントロダクション、自分のコミュニケーションスタイルを知る、自分の意見をどう伝えるか、医療面接デモンストレーション、まとめを担当する。</p> <p>(青谷恵利子/5回) 医療コミュニケーション理論、家族看護理論と医療、リーダーシップ理論、医療チームのコミュニケーション、インフォームドコンセントについて講義する。</p> <p>(中原綾子/2回) 模擬患者に参加してもらい、臨床試験のインフォームドコンセント取得を例に医療コミュニケーションについて演習する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	創薬育薬医療講義 I (基礎)	<p>薬物動態学(PK)と薬力学(PD)についての基礎的な知識と、合理的薬物投与計画と臨床試験計画の作成に際しての基本的な考え方を学ぶ。薬物動態学と薬力学を学ぶ。薬物の合理的投与計画を学ぶ。臨床試験への応用を学ぶ。</p> <p>(中野重行/12回15回)(23)</p> <p>イントロダクション(薬の作用発現と消失、作用発現時間)、薬物血中濃度、投与量、投与間隔、投与速度、投与方法、薬物動態学:薬物の吸収と分布、薬物の代謝と排泄、薬力学:薬物受容体、アゴニスト、アンタゴニスト、薬物相互作用、薬物有害反応、高齢者と薬物、小児・新生児と薬物、妊産婦と薬物合理的薬物治療の考え方、臨床試験の論理と倫理、ディスカッションを担当する。</p> <p>(大西純一/5回)</p> <p>薬物血中濃度、投与量、投与間隔、投与速度、投与方法、小児・新生児と薬物、肝・腎障害時の薬物療法、薬物療法の進歩、ディスカッションを担当する。(23)</p>	オムニバス(23)	専門科目	創薬育薬医療講義 I (基礎)	<p>創薬と育薬についての基礎的な知識を学び、臨床研究のデザイン、プロトコル、倫理的な側面など実施に臨床研究を実施する際に慮すべき様々な問題について考察し、臨床研究で役立つ研究遂行・マネジメント能力を身につけることを目的とする。到達目標としては、創薬・育薬の倫理的側面と科学的側面を説明すること、医学研究のプロトコルが理解できること、臨床研究デザインについて正しく理解し作成ができることを到達目標とする。</p> <p>(中野重行/11回)</p> <p>イントロダクション、臨床研究の科学性1(仮説、検証から学説へ)、臨床研究の科学性2(探索的研究と確認的研究と説明的研究)、臨床研究法の分類と解説(症例報告、調査研究、臨床試験)、インフォームドコンセント、倫理委員会とIRBの役割、臨床研究の課題発想、臨床研究計画の作り方、臨床研究結果の解釈、論文の書き方、創薬と育薬におけるサイエンスとアート、について講義する。</p> <p>(杉森 甫/2回)</p> <p>臨床研究の理論と倫理の歴史、臨床研究の倫理性(ニュールンベルグ倫理綱領からヘルシンキ宣言まで)について講義する。</p> <p>(佐々木 淳/2回)</p> <p>臨床試験の理論と実践1(対照群との比較試験、無作為化、盲検法)、臨床試験の理論と実践2(臨床試験の企画から論文化まで)</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)	<p>創薬育薬医療チームとして臨床試験(治験)に係る知識を系統的に学び、CRC、CRAとしての実務に役立つ知識を習得する。医薬品開発の規制を学ぶ。医薬品開発の現状を理解し、対応を考える。</p> <p><u>(中野重行/15回)</u> <u>イントロダクション(創薬育薬の歴史)、臨床研究、臨床試験における倫理、ディスカッションを担当する。</u></p> <p><u>(大西純一・中野重行/15回)(23)</u> <u>イントロダクション(創薬育薬の歴史)、臨床研究、臨床試験における倫理、医薬品開発から製造販売後の流れ、ICHとGCP、治験における信頼性保証、臨床試験における科学性と試験デザイン、ICHガイドライン、安全性情報の取扱い、総合機構による信頼性調査、PK-PD理論の応用と早期探索的臨床試験、ゲノム創薬と臨床試験、医薬品情報の活用、ディスカッション</u></p>	オムニバス(23)	専門科目	創薬育薬医療講義Ⅱ(応用)	<p>創薬と育薬に必要な薬物動態学(Pharmacokinetics、薬物の吸収・分布・代謝・排泄のプロセス)と薬力学(Pharmacodynamics 薬物の作用発現のメカニズム)についての基礎的な知識ならびに創薬育薬医療チームとして、特に臨床試験、治験等に係る知識について系統的に学び、実際の実務業務に役立つ知識を習得する。基礎的な事柄の基となる根拠について、ICHにおけるガイドラインおよび国内規制への繋がりについて学び、創薬と育薬における規制の背景を含めた知識内容を深める。</p> <p>(中野重行/9回) イントロダクション、合理的な薬物治療の考え方について臨床薬理学の基礎、薬物動態学について薬物の吸収・分布・代謝・排泄課程を具体的薬物例薬力学について薬物受容体、アゴニスト、アンタゴニスト、薬理作用の発現と消失について具体的に薬物を例示、薬物相互作用についてソリブジン事件や代表的な例、薬物有害反応について、発生様式や理由、代表的なものいくつか、高齢者・小児・新生児・妊婦における薬物療法、病態時(腎機能障害と肝機能障害)の薬物療法について講義する。</p> <p>(20 北川 明/6回) 医薬品の開発の流れについて製薬企業・行政・医療機関の役割、薬事法とGCPに代表される創薬育薬課程を規制している法律、ICHガイドラインについて成り立ちや現状、各種ガイドラインのいくつかを例市販後における医薬品の安全性確認システムについて薬事行政・企業・医療機関の役割と規制している法律(薬事法・GVP、GPSPなど)、臨床試験における有害事象の取扱いと補償、信頼性の確保と個人情報保護について講義する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	創薬育薬医療演習 I (基礎)	<p>学生に研究課題を明確化するプロセスを發表させ、さらに討論を行うことにより研究内容をより深く理解する。治験に従事する職種ごとの問題点を抽出し、研究内容をより理解する。抽出した問題点より研究課題を決定する。發表スキルを向上させる。主な演習項目は、以下のとおりである。</p> <p>オリエンテーション(課題・發表順の決定)、治験依頼者からみた問題点の抽出、医療機関からみた問題点の抽出、CROからみた問題点の抽出、SMOからみた問題点の抽出、グループディスカッション、治験依頼者からみた研究課題、医療機関からみた研究課題、CROからみた研究課題、SMOからみた研究課題。</p> <p>(22)</p>		専門科目	創薬育薬医療演習 I (基礎)	<p>創薬育薬医療チームとして遭遇する場面における業務をプロセスに細分化することによって、データマネージメントの手法について演習を行いながら習得することを目的とする。到達目標としては各業務を正しくプロセス化できること。プロセスの関連を正しく可視化することができること。各業務におけるプレイヤーならびに各プロセスのインプットとアウトプットについて正しく理解して手順書を作成できることとする。論文の構成を学び論文の構造を理解する。EBM演習として論文のエビデンスレベルの評価の演習を行う。</p> <p>具体的な項目は以下のとおりである。1. 「オリエンテーション」演習の説明と諸注意 2. 文献の検索方法について演習する。また、シソーラスの概念について理解し適切なキーワードの設定方法を演習する。3. エンドポイントについて理解する。種々の論文についてエンドポイントの比較と評価を行いエビデンスレベルと関連して評価する。4. 品質管理の手法とプロセス管理について理解する。フローチャート作成ソフトを使用して演習を行う。5. GCPにおけるプロセスの可視化演習 (1) 事務局業務のプロセスの可視化 6. その(2) IRB業務のプロセスの可視化 7. その(3) CRC業務のプロセスの可視化 8. その(4) CRA業務のプロセスの可視化 9. その(5) IRB審査過程の可視化 10. その(6) 模擬同意説明プロセスの可視化 11. データマネージメント演習 12. 上記GCPにおけるプロセスから1つを選び手順書を作成する。</p>	
専門科目	創薬育薬医療演習 II (応用)	<p>問題解決のプロセスを学び、その過程において発表、討論することにより、問題点を再認識しより充実した研究成果を得る。治験に従事する職種ごとの問題点の解決方法を模索し、解決に至る成果を得る。問題解決のプロセスを理解する。發表スキルを向上させる。</p> <p>主な演習項目は以下のとおりである。</p> <p>オリエンテーション(課題・發表順の決定)、治験依頼者からみた問題点の解決法、医療機関からみた問題点の解決法、CROからみた問題点の解決法、SMOからみた問題点の解決法、グループディスカッション、治験依頼者からみた研究成果、医療機関からみた研究成果、CROからみた研究成果、SMOからみた研究成果。</p> <p>(22)</p>		専門科目	創薬育薬医療演習 II (応用)	<p>創薬育薬医療チームとして研究に必要な統計解析ならびにデータマネージメントの手法について演習を行いながら習得することを目的とする。到達目標としてはエンドポイントが設定できること。エンドポイントに合わせた適切な統計手法が選択できること。エンドポイントを正しく集積する為のプロトコルが設計できることとする。</p> <p>具体的な演習項目は以下のとおりである。1. 「オリエンテーション」演習内容の説明と統計解析ソフトJMPのインストール 2. Exelの関数とピボットテーブルの使用法とJMPの基本操作演習 3. Exelを使用してデータの入力とコーディングの演習 4. 模擬アンケート作成演習 (1) 模擬アンケート課題を与え、アンケート調査票の作成 5. その(2) 調査の実施と調査票の回収と点検 6. データマネージメント演習 (1) 調査票の入力とコーディング 7. その(2) ファイル変換と統計解析演習 8. データ解析演習 (1) 一元配置分散分析と多重比較 9. その(2) データのグラフ化について演習 10. その(3) 重回帰分析の演習 11. その(4) 重回帰分析と主成分分析演習 12. その(5) カテゴリカルな分布とモデルの解析演習 13. その(6) 生存時間・線形モデルのあてはめの演習 14. その(7) データのまとめ方について演習</p>	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)	<p>創薬育薬医療チームとして臨床試験に関連する施設(大学病院、製薬企業、行政組織)を見学し臨床試験の理解を深める。主な項目は以下のとおりである。・大学病院を例に医療機関における治験受付事務、IRB事務、被験者対応、CRC業務、IRB審査、プロトコール審査、治験薬管理、治験薬受払などを見学・第Ⅰ相試験受託機関において第Ⅰ相試験の、ボランティア募集、試験実施・管理、検査検体管理などについて見学実習・製薬企業研究所、製薬企業において、医薬品の合成、スクリーニング、GLP試験、薬効薬理試験、臨床開発部門、DM部門、薬事部門などを見学実習・総合機構等の行政機関において薬事行政の各部門を見学実習・医療機関において治験審査委員会委員会の事務と審議について見学・地域治験ネットワークを構築している中核医療機関において、地域治験ネットワーク事務局業務、IRB、緊急時対応業務などについて見学・CROにおいて各部門を見学しCROの役割を理解する・SMOにおいて各部門を見学しCROの役割を理解する。(22)</p>		専門科目	創薬育薬医療演習Ⅲ(展開)	<p>創薬育薬医療チームとして臨床試験に関連する施設(大学病院、製薬企業、行政組織)を見学し臨床試験の理解を深める。SMOにおいて各部門を見学しCROの役割を理解する。</p> <p>(中野重行/2回) 大学病院を例に医療機関における治験受付事務、IRB事務、被験者対応、CRC業務、IRB審査、プロトコール審査、治験薬管理、治験薬受払などを見学、総合機構等の行政機関において薬事行政の各部門を見学を行う。</p> <p>(中原綾子/2回) 大学病院を例に医療機関における治験受付事務、IRB事務、被験者対応、CRC業務、IRB審査、プロトコール審査、治験薬管理、治験薬受払などを見学、医療機関において治験審査委員会委員会の事務と審議について見学を行う。</p> <p>(入江 伸/1回) 第Ⅰ相試験受託機関において第Ⅰ相試験の、ボランティア募集、試験実施・管理、検査検体管理などについて見学実習する。</p> <p>(池松秀之/1回) 地域治験ネットワークを構築している中核医療機関において、地域治験ネットワーク事務局業務、IRB、緊急時対応業務などについて見学する。</p> <p>(20 北川 明/4回) 大学病院を例に医療機関における治験受付事務、IRB事務、被験者対応、CRC業務、IRB審査、プロトコール審査、治験薬管理、治験薬受払などを見学する創薬育薬医療チームとして臨床試験に関連する施設(大学病院、製薬企業、行政組織)を見学し臨床試験の理解を深める。製薬企業研究所、製薬企業において、医薬品の合成、スクリーニング、GLP試験、薬効薬理試験、臨床開発部門、DM部門、薬事部門などを見学実習する。CROにおいて各部門を見学しCROの役割を理解する。</p>	オムニバス

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学特別研究	<p>(概要) 薬理系、臨床薬理系、分子生物系、化学系、衛生系、臨床薬物動態学系、分析系、医療系および創薬・育薬系に関する基礎研究、調査研究を通じて、ストレス性精神疾患の病態解明、自律神経系における受容体と伝達物質の生理作用、チャネルの機能と生理、心筋保護薬のメカニズム解明と機能未知遺伝子の探索および新規生理活性物質の探索、D-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義、DNAメチル化による転写制御機構、リパーゼによる生理活性物質の合成、新規含窒素複素環化合物の合成、コンピューターによる分子設計、慢性炎症に伴う異常なモデリング機構の分子病理学的解明、薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響、中枢神経系に関わる精神神経疾患及び慢性疼痛の機能解析と新規治療薬開発に関する研究、生体内還元能への影響の<i>in vivo</i>評価、麻薬使用に関する服薬指導、レギュラトリーサイエンスおよび治療薬の経済的価値の算出、シクロデキストリンの包接化合物に対する競合包接阻害物質の作用を利用したDDSの開発、中枢・循環器系に作用する漢方処方薬の有効性の解明と薬効成分特定及びそれに伴う有効性の高い生薬選定のための条件確立、環境因子の細胞への影響とその作用機構についての解析アルコールとストレスに関する多角的研究、に於ける課題研究を指導し、論文指導を行う。</p> <p>(20) 武田弘志) ストレス性精神疾患の病態解明のため、ストレス適応および破綻モデル動物を作成し、脳機能および分子生物学的レベルにおける変化を解析し、ストレス性精神疾患の病態解明や新規治療戦略を構築し、薬理系研究である「ストレス性精神疾患の病態解明と新規治療戦略開発」の課題について研究指導を行う。</p> <p>(22 辻 稔) ストレス性精神疾患の病態解明のため、ストレス適応および破綻モデル動物を作成し、脳機能および分子生物学的レベルにおける変化を解析し、ストレス性精神疾患の病態解明や新規治療戦略を構築し、薬理系研究である「ストレス性精神疾患の病態解明と新規治療戦略開発」の課題について研究指導を行う。</p> <p>(14 角南明彦) I群抗不整脈薬結合部位の構造と機能を明らかにするために、分子生物学的な手法を用いて作成したチャネル変異体DNAを、培養細胞系にトランスフェクションしてチャネル変異体を発現させ、抗不整脈薬の作用とゲーティングに及ぼす影響を、電気生理学的手法を用いて精査することで、臨床薬理系研究「心筋Naチャネルの抗不整脈薬結合部位の同定と機能」の課題について研究指導を行う。</p>		専門科目	生命薬科学特別研究	<p>(概要) 薬理系、臨床薬理系、分子生物系、化学系、衛生系、臨床薬物動態学系、分析系、医療系および創薬・育薬系に関する基礎研究、調査研究を通じて、ストレス性精神疾患の病態解明、自律神経系における受容体と伝達物質の生理作用、チャネルの機能と生理、心筋保護薬のメカニズム解明と機能未知遺伝子の探索および新規生理活性物質の探索、D-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義、DNAメチル化による転写制御機構、リパーゼによる生理活性物質の合成、コンピューターによる分子設計、生命の維持と元素の役割、薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響、生体内還元能への影響の<i>in vivo</i>評価、選択的送達システム(DDS)、麻薬使用に関する服薬指導、レギュラトリーサイエンスおよび治療薬の経済的価値の算出に於ける課題研究を指導し、論文指導を行う。</p> <p>(1 武田弘志) ストレス性精神疾患の病態解明のため、ストレス適応および破綻モデル動物を作成し、脳機能および分子生物学的レベルにおける変化を解析し、ストレス性精神疾患の病態解明や新規治療戦略を構築し、薬理系研究である「ストレス性精神疾患の病態解明と新規治療戦略開発」の課題について研究指導を行う。</p> <p>(22 辻 稔) ストレス性精神疾患の病態解明のため、ストレス適応および破綻モデル動物を作成し、脳機能および分子生物学的レベルにおける変化を解析し、ストレス性精神疾患の病態解明や新規治療戦略を構築し、薬理系研究である「ストレス性精神疾患の病態解明と新規治療戦略開発」の課題について研究指導を行う。</p> <p>(14 角南明彦) I群抗不整脈薬結合部位の構造と機能を明らかにするために、分子生物学的な手法を用いて作成したチャネル変異体DNAを、培養細胞系にトランスフェクションしてチャネル変異体を発現させ、抗不整脈薬の作用とゲーティングに及ぼす影響を、電気生理学的手法を用いて精査することで、臨床薬理系研究「心筋Naチャネルの抗不整脈薬結合部位の同定と機能」の課題について研究指導を行う。</p>	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学特別研究(続き)	(15 原明義) 心筋保護薬とその作用メカニズムを明らかにするため、動物個体(<i>in vivo</i> 系)、環流心臓を用いた心筋障害モデル(<i>ex vivo</i> 系)および培養心筋細胞(<i>in vitro</i> 系)を用いて各薬剤の薬効評価を行い、臨床薬理系研究「心臓疾患に対する治療薬とその作用メカニズム」の課題について研究指導を行う。		専門科目	生命薬科学特別研究(続き)	(15 原明義) 心筋保護薬とその作用メカニズムを明らかにするため、動物個体(<i>in vivo</i> 系)、環流心臓を用いた心筋障害モデル(<i>ex vivo</i> 系)および培養心筋細胞(<i>in vitro</i> 系)を用いて各薬剤の薬効評価を行い、臨床薬理系研究「心臓疾患に対する治療薬とその作用メカニズム」の課題について研究指導を行う。	
		(4 大飼正俊) 大腸菌など病原菌の機能未知遺伝子をデータベースサーチし、選択したDNAをクローニングし、発現ベクターに組み込み大量発現株を作製する。これらの遺伝子産物の解析、高発現株やノックアウト株のフェノタイプ解析を通して当該遺伝子産物の機能を推定し、分子生物学系研究「機能未知遺伝子の機能解析研究」の課題について研究指導を行う。				(4 大飼正俊) 大腸菌など病原菌の機能未知遺伝子をデータベースサーチし、選択したDNAをクローニングし、発現ベクターに組み込み大量発現株を作製する。これらの遺伝子産物の解析、高発現株やノックアウト株のフェノタイプ解析を通して当該遺伝子産物の機能を推定し、分子生物学系研究「機能未知遺伝子の機能解析研究」の課題について研究指導を行う。	
		(5 吉川博治) 新規生理活性物質及び特異酵素を生産する微生物のスクリーニング、分離を実施し、生物由来の二次代謝産物による新規生理活性物質を探索する。さらに既知二次代謝産物生産菌(ポリケチド、ポリエンなど)生産の制御機構検討を検討することで、分子生物学的研究「微生物機能を用いた医薬品生産」の課題について研究指導を行う。				(5 吉川博治) 新規生理活性物質及び特異酵素を生産する微生物のスクリーニング、分離を実施し、生物由来の二次代謝産物による新規生理活性物質を探索する。さらに既知二次代謝産物生産菌(ポリケチド、ポリエンなど)生産の制御機構検討を検討することで、分子生物学的研究「微生物機能を用いた医薬品生産」の課題について研究指導を行う。	
		(13 黒澤美枝子) 自律神経機能におよぼす各種受容体ならびに神経伝達物質の生理作用を明らかにするため、自律神経機能に対する各種受容体作動薬・遮断薬の自律神経系に出現する反射性ならびに情動性の反応におよぼす影響を精査することで、薬理系研究である「自律神経機能の反射性ならびに情動性反応に関する薬理学的研究」の課題について研究指導を行う。				(13 黒澤美枝子) 自律神経機能におよぼす各種受容体ならびに神経伝達物質の生理作用を明らかにするため、自律神経機能に対する各種受容体作動薬・遮断薬の自律神経系に出現する反射性ならびに情動性の反応におよぼす影響を精査することで、薬理系研究である「自律神経機能の反射性ならびに情動性反応に関する薬理学的研究」の課題について研究指導を行う。	
		(9 金野柳一) D-アミノ酸とD-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義を解析する目的で、培養細胞および、rat・mouseを用いてD-アミノ酸代謝関連酵素タンパク発現、活性測定および、酵素活性をコードする発現遺伝子の塩基配列を解析し、さらにプロモーターアッセイ等の手法を用いて分子生物学系研究「D-アミノ酸とD-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義」の課題について研究指導を行う。				(9 金野柳一) D-アミノ酸とD-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義を解析する目的で、培養細胞および、rat・mouseを用いてD-アミノ酸代謝関連酵素タンパク発現、活性測定および、酵素活性をコードする発現遺伝子の塩基配列を解析し、さらにプロモーターアッセイ等の手法を用いて分子生物学系研究「D-アミノ酸とD-アミノ酸代謝関連酵素の生理的意義」の課題について研究指導を行う。	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(17 白石昌彦) がんなどのヒト疾患の発生に、DNAメチル化異常が密接に関連していることからDNAメチル化による転写制御機構を明らかにするために、培養ヒトがん細胞を用いて、DNAメチル化に関与する酵素阻害時の、遺伝子転写の回復を解析し、特にがん関連遺伝子において、メチル化が転写制御に影響を与えるDNA領域を同定することで、分子生物学系研究「DNAメチル化による転写制御機構」の課題について研究指導を行う。		専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(17 白石昌彦) がんなどのヒト疾患の発生に、DNAメチル化異常が密接に関連していることからDNAメチル化による転写制御機構を明らかにするために、培養ヒトがん細胞を用いて、DNAメチル化に関与する酵素阻害時の、遺伝子転写の回復を解析し、特にがん関連遺伝子において、メチル化が転写制御に影響を与えるDNA領域を同定することで、分子生物学系研究「DNAメチル化による転写制御機構」の課題について研究指導を行う。	
		(11 尾能満智子) グリーンケミストリーの考えの下に、何種類かのリパーゼを光学分割の手段に利用し、生理活性物質に共通のフラグメントを高い光学純度で合成し、これを出発物質とし合成反応と組み合わせることによって、微生物などから得られる12員環、16員環マクロラクトン類の合成を行い、化学系研究「リパーゼによる酵素反応を基盤とした生理活性物質の合成研究と反応の開発」に関する課題について研究指導を行う。				(11 尾能満智子) グリーンケミストリーの考えの下に、何種類かのリパーゼを光学分割の手段に利用し、生理活性物質に共通のフラグメントを高い光学純度で合成し、これを出発物質とし合成反応と組み合わせることによって、微生物などから得られる12員環、16員環マクロラクトン類の合成を行い、化学系研究「リパーゼによる酵素反応を基盤とした生理活性物質の合成研究と反応の開発」に関する課題について研究指導を行う。	
		(12 渡邊敏子) 含窒素複素環化合物であるインドール系化合物について、インドール類への位置選択的な官能基導入を行い、その官能基を基にして炭素骨格の延長あるいは窒素官能基の導入を行う。そこから新たな環を構築し、新しいタイプのインドール誘導体とし構造活性相関を検討し、化学系研究「創薬を指向した新規含窒素複素環化合物の合成研究」の課題について研究指導を行う。				(12 渡邊敏子) 含窒素複素環化合物であるインドール系化合物について、インドール類への位置選択的な官能基導入を行い、その官能基を基にして炭素骨格の延長あるいは窒素官能基の導入を行う。そこから新たな環を構築し、新しいタイプのインドール誘導体とし構造活性相関を検討し、化学系研究「創薬を指向した新規含窒素複素環化合物の合成研究」の課題について研究指導を行う。	
		(21 後藤 了) コンピューターによる分子設計および分子構造解析手法を用いたファルマコインフォマティクスを利用した薬物・タンパク質複合体の立体構造解析研究を実施する。解析手法は、多変量解析、データマイニング、微分幾何学と位相幾何学、定量的構造機能相関解析等を用いて、化学系研究「生理活性物質およびその送達系に関わる分子物性の合理的設計とその評価概念」の課題について研究指導を行う。				(21 後藤 了) コンピューターによる分子設計および分子構造解析手法を用いたファルマコインフォマティクスを利用した薬物・タンパク質複合体の立体構造解析研究を実施する。解析手法は、多変量解析、データマイニング、微分幾何学と位相幾何学、定量的構造機能相関解析等を用いて、化学系研究「生理活性物質およびその送達系に関わる分子物性の合理的設計とその評価概念」の課題について研究指導を行う。	
		(浅野 哲) <u>慢性炎症に伴う異常なリモデリング機構の分子病理学的解明についての研究指導を行う。本研究では、肺、肝臓、腎臓等の慢性病態モデルや各種器官由来の培養細胞を用い、分子病理学的手法を用いて様々な増殖因子の組織・細胞内動態と細胞形態の関連を観察し、炎症性細胞により惹起された線維化のメカニズムを明らかにすることを目的とする。(22)</u>				(2 千葉百子) 必須微量元素あるいは有害元素(水銀、鉛、ヒ素、カドミウムなど)の人体への影響を論文調査し、さらに環境中でのこれら元素測定、血液を使用して <i>in vitro</i> での元素の作用を酵素活性への影響を精査することで、衛生系研究「生命と元素、健康と元素など生命の維持と元素の役割」に関する課題について研究指導を行う。	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(6 小瀧 一) 薬物代謝酵素およびトランスポーターへの影響が臨床において問題となる薬物を用いて、 <i>in vivo</i> 動態実験、 <i>in vitro</i> マイクロソーム実験および培養細胞系を用いて、発現タンパクや遺伝子への薬物の影響を精査し、薬物動態学的解析を行うことで臨床での現象のメカニズム解明およびモデル解析を実施することで、臨床薬物動態学系研究「薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響」に関する課題について研究指導を行う。		専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(6 小瀧 一) 薬物代謝酵素およびトランスポーターへの影響が臨床において問題となる薬物を用いて、 <i>in vivo</i> 動態実験、 <i>in vitro</i> マイクロソーム実験および培養細胞系を用いて、発現タンパクや遺伝子への薬物の影響を精査し、薬物動態学的解析を行うことで臨床での現象のメカニズム解明およびモデル解析を実施することで、臨床薬物動態学系研究「薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響」に関する課題について研究指導を行う。	
		(18 山田治美) 薬物代謝酵素およびトランスポーターへの影響が臨床において問題となる薬物を用いて、 <i>in vivo</i> 動態実験、 <i>in vitro</i> マイクロソーム実験および培養細胞系を用いて、発現タンパクや遺伝子への薬物の影響を精査し、薬物動態学的解析を行うことで臨床での現象のメカニズム解明およびモデル解析を実施することで、臨床薬物動態学系研究「薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響」に関する課題について研究指導を行う。				(18 山田治美) 薬物代謝酵素およびトランスポーターへの影響が臨床において問題となる薬物を用いて、 <i>in vivo</i> 動態実験、 <i>in vitro</i> マイクロソーム実験および培養細胞系を用いて、発現タンパクや遺伝子への薬物の影響を精査し、薬物動態学的解析を行うことで臨床での現象のメカニズム解明およびモデル解析を実施することで、臨床薬物動態学系研究「薬物による薬物代謝酵素および薬物トランスポーターへの影響」に関する課題について研究指導を行う。	
		(天野 託) 中枢神経系に関わる精神神経疾患及び慢性疼痛の機能解析と新規治療薬開発に関する研究指導を行う。中枢神経系の疾患は気分障害、統合失調症、てんかんや慢性疼痛(持続性身体表現性疼痛障害)等がある。近年の科学技術の発達で、今まで内因性(原因不明)と言われてきた神経疾患も徐々にその病態生理が解明されてきているが、未だに不明な点も多い。本研究では中枢神経系に関わる精神神経疾患および持続性身体表現性疼痛障害の病態解明と新規治療開発を目指す。 (22) (19 横山秀克) 還元能は種々の酸化ストレスに対する防御能力の指標であり、 <i>in vivo</i> での還元能の唯一の評価法である生体計測用ESR法を用いて、臨床で用いられている薬物を投与したラットやマウスなどの実験用小動物における、主要臓器における治療効果、副作用発現に関与するといわれる還元能を <i>in vivo</i> で評価し、分析系研究「生体計測用電子スピン共鳴(ESR)装置を用いた薬物の生体内還元能への影響の <i>in vivo</i> 評価」に関する課題について研究指導を行う。				(3 久岡正史) 薬剤を作用部位へ選択的に送達することは、有効性増強および副作用軽減のために重要であり、病巣組織へのターゲティングの可能性を、エマルジョンを用いて、応用可能な治療薬を選択してエマルジョン製剤を調整し、種々病巣への薬剤のターゲティングを動態学的に解析し、作用部位への選択性を精査することで、臨床薬物動態学系研究「脂溶性薬剤の作用部位への選択的送達システム(DDS)」の課題について研究指導を行う。	
						(19 横山秀克) 還元能は種々の酸化ストレスに対する防御能力の指標であり、 <i>in vivo</i> での還元能の唯一の評価法である生体計測用ESR法を用いて、臨床で用いられている薬物を投与したラットやマウスなどの実験用小動物における、主要臓器における治療効果、副作用発現に関与するといわれる還元能を <i>in vivo</i> で評価し、分析系研究「生体計測用電子スピン共鳴(ESR)装置を用いた薬物の生体内還元能への影響の <i>in vivo</i> 評価」に関する課題について研究指導を行う。	

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(8 旭満理子) 対面調査方法およびアンケート調査法を用いて麻薬使用患者への薬剤師による服薬指導の問題点を病院および保険薬局薬剤師に対するアンケートまたは対面調査を実施し、病院・保険薬局における服薬指導の問題点と解決法を探索し、さらに患者調査により、患者ニーズに沿った麻薬の薬剤管理指導業務における解決策を解析し、医療薬学系研究「麻薬使用患者への薬剤師による服薬指導の問題点の抽出および効果的な薬学的管理法」の課題について研究指導を行う。		専 門 科 目	生命薬科学特別研究(続き)	(8 旭満理子) 対面調査方法およびアンケート調査法を用いて麻薬使用患者への薬剤師による服薬指導の問題点を病院および保険薬局薬剤師に対するアンケートまたは対面調査を実施し、病院・保険薬局における服薬指導の問題点と解決法を探索し、さらに患者調査により、患者ニーズに沿った麻薬の薬剤管理指導業務における解決策を解析し、医療薬学系研究「麻薬使用患者への薬剤師による服薬指導の問題点の抽出および効果的な薬学的管理法」の課題について研究指導を行う。	
		(7 佐藤拓夫) 医薬品評価に関するレギュラトリーサイエンスについて学び、臨床データのグローバルな活用方法及びElectronic Data Capturing(EDC)を活用する国際共同治験に関する研究の実践、指導を行い、創薬・育薬系研究「医薬品創製における臨床評価と育薬に関するレギュラトリーサイエンス」の課題について研究指導を行う。				(7 佐藤拓夫) 医薬品評価に関するレギュラトリーサイエンスについて学び、臨床データのグローバルな活用方法及びElectronic Data Capturing(EDC)を活用する国際共同治験に関する研究の実践、指導を行い、創薬・育薬系研究「医薬品創製における臨床評価と育薬に関するレギュラトリーサイエンス」の課題について研究指導を行う。	
		(16 池田俊也) Quality-adjusted Life YearsおよびWillingness-to-payによる経済的価値判定、Probabilistic Sensitivity Analysis (PSA)による結果の不確実性判定の手法を用い、創薬・育薬系研究「生活習慣病治療薬の経済的価値の算出」の課題研究を指導し、論文指導を行う。				(16 池田俊也) Quality-adjusted Life YearsおよびWillingness-to-payによる経済的価値判定、Probabilistic Sensitivity Analysis (PSA)による結果の不確実性判定の手法を用い、創薬・育薬系研究「生活習慣病治療薬の経済的価値の算出」の課題研究を指導し、論文指導を行う。	
		(徳村忠一) シクロデキストリンの包接化合物に対する競合包接阻害物質の作用を利用したDDSの開発についての研究指導を行う。本研究では、競合包接阻害物質として有用性のある物質を探すと同時にドラッグデリバリーシステム(DDS)として実用化する研究を実施する。(22)					
		(榎原 巖) 中枢・循環器系に作用する漢方処方薬の有効性の解明と、薬効成分特定、それに伴う、有効性の高い生薬選定のための条件確立に関する研究指導を行う。まず汎用される漢方処方薬を選定し、構成生薬に含有する成分を分離調査する。得られた化合物の薬効評価を通じ、有効性が特定された成分を指標に、生薬の品質分析を実施する。有効成分をより多く含む生薬を、優良品種として選定する方法論の確立を目指す。(23)					

新				旧			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生命薬科学特別研究(続き)	<p>(清水貴壽) 環境因子の細胞への影響とその作用機構についての解析についての研究指導を行う。本研究では環境因子としてDEPをはじめとする各種ナノ粒子を扱い、これら粒子の生体への影響やその作用機序を明らかにする事を目的に、培養細胞を用いて細胞機能への影響を調べ、その作用機構について分子生物学的な手法を用いて解析を試みる。(22)</p> <p>(加藤英明) アルコールとストレスに関する多角的研究に関する研究指導を行う。本研究では、慢性的にストレス負荷を行ったモデル動物を用いて、①アルコール摂取がストレス適応形成に及ぼす作用、②ストレス負荷がアルコール摂取欲求に及ぼす作用、③ストレス適応とアルコール依存との相互作用について行動薬理的検討を基盤とした研究を遂行する。さらに、分子生物学的・免疫組織学的手法などを取り入れることで、戦略的・多角的に研究を展開する。(22)</p>		専門科目	生命薬科学特別研究(続き)		

国際医療福祉大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 国際医療福祉大学学則第11条に基づき、本学の学部ごと又は複数学部にまたがってFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学の定める教学の基本方針にしたがい、教育法の改善及び教員の資質の向上などFD（ファカルティ・ディベロプメント）に関して討議を行い、より質の高い教育方法の推進を図るものとする。

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- 一 学部長の意見を聴いて学長が指名する各学科の専任教員、及びセンターがある場合にあってはセンターの専任教員
- 二 学長が必要と認めた者

2 前項第一号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 第1項第二号の委員の任期は、学長が必要と認める期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の成立)

第5条 委員会は、半数以上の委員の出席により成立する。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務処理)

第7条 委員会の事務は、各キャンパス教務事務主管課の長が取り扱う。

(雑則)

第8条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

別紙 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 基礎・生命薬学分野の薬学研究の最先端の研究能力を有する人材の育成並びに臨床・医療薬学分野の研究・実践能力を有する高度専門職業人としての薬剤師の育成

平成22年4月に開設した本研究科本専攻は、入学定員15名のところ、初年度9名、2年目の平成23年度には1名の入学者を迎えた。在学者10名の内訳は、生命薬学分野2名、医療薬学分野臨床薬学領域6名、医療薬学分野がん薬物療法学領域2名である。社会人学生が半数以上を占めているが、これは本研究科専攻の特色である。

生命薬学分野では、特に、薬理学、ゲノム分子生物学を中心に、薬学研究における最先端の知見を学びつつ、将来の薬学研究・教育者、医薬品開発に携わる研究者・技術者を視野に入れながら、修士論文の指導が行われている。

医療薬学分野臨床薬学領域では、病院薬剤師等として現場で勤務する社会人学生が、現職場でのスキルアップを目的として研究を行っているほか、本研究科専攻のもう1つの目的である高度専門職業人としての薬剤師の養成教育も行われている。

医療薬学分野がん薬物療法学領域では、臨床薬学領域と同様に、病院薬剤師等として現場で勤務する社会人学生が、現職場でのスキルアップと日本病院薬剤師会認定の「がん薬物療法認定薬剤師」を目指して学修している。

医療薬学分野創薬育薬マネジメント領域は、現在までのところ入学者はないが、来年度以降は、臨床試験の中核スタッフの養成という目的に沿って、主に医療機関や製薬企業に勤務する社会人を対象とした教育を実施する。

2 学生確保

広範な薬学研究の希望、病院・薬局・企業等に勤務する修学の需要を積極的に掘り起こし、社会人の修学の要望に応えるため、本学ではこれまでも、教育研究体制の充実、昼夜開講制、遠隔授業、メディアの活用、集中講義等さまざまな工夫を行っている。今後も本研究科専攻の教育内容や教育方法の特色を全国の薬学部や医療機関、保険薬局、製薬企業等に広報周知し、学生確保に努めることとしている。

なお、本学では、平成24年4月に薬学部（6年制）の卒業者が出るのに合わせ、薬学部（6年制）を基礎とする薬学研究科生命薬科学専攻（博士課程）（入学定員5名）を開設する予定である。今後の進学希望者の動向及びこれまでの入学者数の推移等を勘案し、本研究科については、平成24年度から入学定員を15名から5名に変更する予定である。

3 教育課程

教育課程では、薬学基礎科目に7科目及び薬学全体を俯瞰できる「生命薬科学総合演習Ⅰ（基礎系）」「生命薬科学総合演習Ⅱ（臨床系）」を設けることで高度の薬学専門教育を行う基盤の強化を図った。生命薬学分野のみならず、医療薬学分野においてもそれぞれの目的・特色に応じた科目を配置し、計画に沿った教育を行っている。

4 入学者選抜

入学者選抜にあたり、一般入試は出願書類及び「小論文」「英語」「面接」、社会人入試及び学内推薦入試は出願書類及び「面接」を課した。現在までのところ社会人入試及び学内推薦入試による受験者のみとなっているが、学生募集、広報活動を強化し、一般入試による入学生についても確保に努めることとしている。

以 上